



西消防団だより

令和3年度号（通算第11号）

発行/編集：横浜市西消防団広報委員会 〒220-0041 横浜市西区戸部本町50-11 西消防署消防団係内（TEL045-313-0119）



新入団員研修 実技



風水害対策訓練

新入団員研修 座学

上級救命講習

コロナに負けない

令 令和2年から西消防団の活動は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けました。当初、災害出場・資機材点検以外の活動は中止となるなか、消防団活動に必要な知識を習得するため、資料を用いて感染症、熱中症、住宅用火災警報器等に関する自主学習を行ったほか、「横浜市消防団ホームページ」を利用したオンライン研修」を受講するなど、これまでに経験したことがない厳しい環境下で、実施可能な活動を模索し活動してきました。

その後、活動可能な範囲が拡大されると、新型コロナウイルスの感染防止のための対策を講じた上で、新入団員研修、救命講習、風水害対策訓練、防災指導隊指導者研修など、消防団活動に必要な訓練・研修を実施いたしました。

また、令和2年の秋には、西消防署にて延焼防止器具を用いた放水訓練、横浜駅西口で解体予定の建物において、救助資機材の取扱い訓練を実施するなど、災害に対する備えを着実に進めてきました。

今後も、新型コロナウイルスの感染防止対策を実施したうえで、地域防災力向上に向けた取り組みを続けていきます。

YOKOHAMA NISHI FIRE CORPS

横浜市西消防団 団員募集中

西消防団への入団をご希望の方は
西消防署 消防団係までご連絡ください

TEL : 045-313-0119



入団申請



PR動画



大災害に備える



エンジンカッターによる鉄製ドアの切断訓練



ストライカーによるコンクリート破壊訓練

令和2年9月、横浜駅西口で解体中のマンションにて、救助資機材の取り扱い訓練を実施しました。これは、消防団に貸与されているエンジンカッターや携帯用コンクリート破壊器具（ストライカー）等を活用し、玄関ドアの開放やコンクリートブロック等の排除を行う実践的な訓練です。

まず、西消防署員の指導を受けながらエンジンカッターを使用してマンション玄関のドアを切断し、開口部を設定する訓練を実施しました。女性団員も、補助のもと切断作業に挑戦し、開口部を設定することができました。

続いて、ストライカーの取り扱いを熟知している消防団員が指導者となり、コンクリートブロックを破壊する訓練を実施しました。ストライカーは、重機が入れない狭い場所などで、人力のみでコンクリート・レンガブロックを破壊することができ、広い用途で救助・排除活動に活用できます。

実際の建物を使用する訓練は滅多にできるものではなく、非常に有益な訓練となりました。西消防団ではこの訓練の経験を活かし、これからも救助技術の向上に努めてまいります。

震災津波対策訓練

令和3年9月、西消防署の指導のもと、西消防団全分団で震災・津波対策訓練を実施しました。訓練内容は横浜市内で震度6強を観測する南海トラフ地震の発生を想定したものです。

地震発生後、班長を中心に班員が自宅から各班器具置場に参集するところから訓練が始まりました。地震直後に携帯電話などの通信回線が使用不可能となった状況を想定し、まず無線機のアンテナを設営して分団本部との通信網を確保しました。

回本部は西消防署に災害対策本部を設置後、西区内の被害状況を整理し、各分回本部を通じて現場の各班へ指令を行う指揮系統の訓練を同時進行で実施しました。

各班は指令に基づき、災害現場に出動し被害状況を各分回本部へ報告した後、津波警報が発令された状況を想定して、市民の避難誘導訓練を実施しました。



災害対策本部の運用訓練



避難誘導訓練



チェーンによる障害物排除訓練

倒壊建物からの救助訓練

避難誘導訓練に引き続き、倒壊建物からの救助救出訓練を実施しました。付与された想定では、倒壊した家屋内に要救助者があり、金属製のパイプや木材が侵入を阻んでいる状況でしたので、消防団に配備されているチェーンソーやエンジンカッター、油圧ジャッキ等の各種救助資機材を活用し救助を試みました。

要救助者に接触する際も新型コロナウイルス等の感染防止対策に留意して、バックボードなどの救助資器材の取り扱いを訓練しました。訓練の最後には、指導頂いた消防職員の皆様の講評のもと、団員全員で課題の確認を行いました。

今回の訓練は、災害発生直後、器具置場への参集、無線通信網の確立、災害現場への出動、救助救出までを通して行う新しい試みであり、一つ一つの動作であれば出来る事も、同時進行で状況が進むと、多くの困難がある事を再認識しました。この訓練によって指揮系統から個別の班の活動まで課題が整理され、今後の訓練に多くの教訓と示唆を与える、極めて有意義な機会となりました。

西消防団では、今回得た教訓をもとに、一層練度を高め、震災で一人でも多くの市民を守るよう実践的な訓練を続けていきたいと思っております。



火災現場を想定した放水訓練

実戦消火訓練

西消防団では令和3年4月、西消防署並びに横浜市消防訓練センターにて基本消火訓練を行いました。

西消防団の訓練では、概ね入団5年目までの消防団員を対象に、消火ホースの取扱い、可搬式小型消防ポンプの操作等、消火活動に必要な基礎的な技術を学びました。先輩団員の丁寧な指導の下、ホースを延長しガンタイプノズルを使用した放水を実施しました。

後日、全団員を対象とした実戦的な訓練を横浜市消防訓練センターにて実施しました。訓練では、火災発生時と同様、器具置場からの出場、要救助者の救出、消火活動までの一連の流れを実際に行い、それぞれの活動における留意点を全団員で確認しました。

訓練は火災の想定が伏せられた状態で行われ、現場到着後、隊長が火災の状況、要救助者の有無を確認し、活動方針を決定する等、実際の災害を想定した内容となりました。

西消防団では、今後もこのような訓練を継続して行うことで、災害への対応力をより一層向上していきます。



新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した応急手当訓練

団長挨拶



西消防団長 飯村 勇一

日頃より地域の皆様には消防団活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

また、消防団員の皆様にあつては、日頃の訓練や資機材点検等、ご尽力を頂き感謝します。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日々の生活や仕事にも様々な制約が課されている状況ですが、消防団活動においても訓練や防災指導の中止等、活動に影響が生じております。満足な活動ができないなか、地域防災力を保持するため感染防止対策を講じた上で活動を続けてまいりました。

ワクチンの接種も進みつつあり、ようやく明るい兆しが見えてきました。感染が下火になった際には、これまでできなかった活動を順次再開していきます。

複雑かつ多様化する災害に対応するためには、日々の訓練や研修による知識・技術の習得が必要であるほか、地域の皆様との協力・連携が求められています。

西消防団には地域住民の皆様への防災指導等を通じて、これからの災害に負けない街づくりに取り組んでまいります。

分団長挨拶



第一分団 分団長 小島 小島 一之

昨年度より、西消防団第一分団分団長を務めさせて頂いております。小島一之です。我々第一分団は、主に西区に於ける第一地区及び第四地区を管轄地域として日頃、防火防災に従事しております。

昨年来、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、我々消防団も訓練等の活動も制限され、非常に難しい舵取りを強いられました。その間、団員の士気の低下を防ぐため、資料による自主研修等にて各団員のスキルアップを図ってきました。

令和3年度に入ってから、感染症対策を充分にとり、火災に対しての消火訓練や毎年行っていた救命講習など、徐々にではありますが活動を再開しております。

我々消防団は、防火・防災のための広報活動や訓練のほか、災害時の消火活動などに従事します。災害現場においては、主に後方支援や被災された方へのケアなどを行っております。

各団員がそれぞれの役割を担い、市民の安全のため、日々活動に打ち込み、大規模災害の発生を想定し、公設消防との連携の強化に力を入れていきたいと考えております。



第二分団 分団長 関口 関口 強

昨年4月に分団長に就任直後、コロナ禍により消防団活動の自粛に見舞われました。その後、会議は書面での開催、活動は少人数に限定する等の感染防止対策を講じながら活動を続けてきました。

年間事業計画で予定されていた訓練等もことごとく見送りとなり、私たちと地域住民の皆様との接点であり、欠かせない活動の一つである町内会でのイベント、防災訓練までも中止となりました。

近年、消防団員の減少が全国的に問題となっており、今後の団員減少の危機を打開する為、積極的に広報活動を行っていきまします。また、災害は年々複雑化、多様化しており、どのような災害が発生するかを予測するのは困難です。そのため消防団と公設消防隊との連携訓練は重要と考えており、第二分団でも火災、風水害、震災等、それぞれ異なる災害を想定した訓練を計画し実施していきます。今後とも災害に対応する訓練を地域の皆様と一緒に、安全・安心な街づくりに取り組むたいと思っております。



第三分団 分団長 白駒 白駒 利和

昨年より続くコロナ禍。不要不急の外出自粛などにより、地域の皆様も不慣れた生活を強いられる事と存じます。

我々消防団も、昨年より思うような訓練活動などが出来ず、苦慮している状況です。その様な中でも何かできることはないかと考え、防災や人命救助等への知識を蓄える絶好の機会と捉えて、在宅での研修などを行ってまいりました。

これまで在宅での研修というものはあまり機会がありませんでしたが、この様なことも有意義であると前向きに考えて取り組んでおります。

地域の皆様方に於かれましては、「ステイホーム」というものがだいぶ根付いていることかと思っております。その中で、改めて防災に対する知識を蓄える時間を作って頂けたら、と思っております。分からない事や疑問点などがありましたら、お気軽に身近の消防団員にお声がけください。

マイナスイメージばかり考えず、今この時をチャンスと考え、消防団員は地域の皆様方と共存・共栄していきたいと思っております。

—消防署と消防団の連携について—

署・団連携は
区民の安全・安心!



西消防署長 西川 浩一

西消防団の皆様、本年3月4月1日付で西消防署に着任しました西川と申します。

100年以上の歴史と伝統、そして今も西消防署の中心都市として、管轄する消防署長として、やりの引き締まる思いで、身の引き締まる思いで、防の要として、皆様の地域に、西消防団の皆様の地域に、率も常に高く、さらには女性団員の活躍も目ざましく、市型消防団として災害活動にも積極的に取り組んで頂きます。

3年間
お世話になりました



前西消防署長 宮川 淳一

飯村団長を始め西消防団の皆様、本年3年間お世話になりました。心より感謝申し上げます。



令和2年風水害対策訓練 署と団の集合写真

ヨコハマの顔を守る
西消防団



西消防副署長 飯島 俊朗

おかげさまで副署長として2年目を迎えていただきました。現在ヨコハマの顔を守る西消防団の活動には、不自由な環境ではありませんが、感染防止を第一に工夫して訓練を行います。

安全・安心を守る



西消防副署長 日守 高史

警防課長に就任して3年目になります。今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、様々な災害に対して、消防団の皆様と互いに協力し、西消防の安全・安心を守ります。

強固な連携



西消防副署長 細川 直樹

おかげさまで着任2年目を迎えました。日頃から西消防団の皆様には、災害現場活動等にご尽力、ご協力いただきありがとうございます。



西消防副署長 猪狩 正三

西消防署 西消防副署長 猪狩 正三

西消防団との出会い
西消防署 消防団係長 保阪 美智雄

4月に西消防署消防団係長に着任いたしました保阪と申します。



西消防副署長 出張所長 宿野部 勇二

「人の力」
令和3年4月1日付で境之谷消防出張所に着任しました宿野部でございます。



西消防副署長 出張所長 小林 直人

「守る」地元の安全安心のために
西消防署浅間町消防出張所として2年目を迎えます。

消防団と消防署の連携で地域の安全と安心を守る

消防団は、消防署と同じ消防組織法で定められた消防機関です。横浜市の消防団は、非常勤特別職地方公務員で、普段は本来の仕事や学業、家事をしながら、その地域での経験を活かして災害その他の必要な時に活動します。

西消防団は、西消防署と日頃の訓練や講習において顔の見える関係を築き、火災発生時における消火活動や、地震や風水害などの大規模災害時の各種活動、また、平常時においても応急手当の普及指導、地域への防災指導、特別警戒、広報活動等を実施し、地域防災力の向上に重要な役割を担っています。



延焼防止器具の放水訓練



消防署と団の連携訓練

